

未来教育

白井優斗
原 優
吉田輝哉

変わるネパールの教育 万博、ネパール館を訪問して

ネパールの教育の現状と聞いて、ほとんどの子供が学校に行けず、家の手伝いや労働をしている様子を想像する人は少なくないと思う。けれど、最近のネパールの就学率は、決して低いわけではない。ネパールには義務教育制度があり、日本より2年早い5歳から始まり、計8年間行

われる。その後は4年間中等教育を受けるかどうかの選択をすることができ、中等教育4年目には、大学入学資格を取得できる試験を受けることもできる。このようにネパールの教育は一見課題がないように見えるが、義務教育を終えた後の就学率が大きく下がる事や、学校の数が日本と

比べて少ないこともあり、高低差の激しい道を2〜3時間歩いて登校する子供も少なくないなど、課題も残されている。万博ネパール館長のビレンドラさんは「最近では親も国も子供の教育をさせたい意識が高まっている。」と語っており、ネパールは大きく前進していることがわかる。



生活と結びつく仏教 シンギングボウルで健康に!?

ネパールで主に信仰されている宗教はヒンドゥー教や仏教で、スワヤンブナートやボータナート等の寺院が各地にある。万博ネパール館でも、ほとんどの展示品が仏教やヒンドゥー教に関連するもので、法具や仏像、寺院の縮小モデルなども置かれていた。そんなネパール

館の中でもひとときわ目立っていたのが、このシンギングボウルである。シンギングボウルは正式な仏具というわけではないが、長らく仏教儀式に用いられてきた歴史がある。音を聞くと健康になるといわれており、ネパールでは1日に何度も聞くこともあるそうだ。他には例えられない音が鳴るので、ぜひ聞いてみてほしい。



シンギングボウルの音はこちらから



進むデジタル教育

ネパールではデジタル機器を使った教育も進んでいる。取材で聞いた話では、私立の学校では一人一台パソコンなどが支給されているところが多い。一方、公立の学校では一人一台支給はできておらず18%ほどにとどまっている。ICT機器の導入にはコストがかかるため、公立の学校ではそこまでの余裕がないのだ。また、そもそもICT危機を安全に利用するための環境が整っておらず、安全に保管・使用ができないところも多い。では日本とネパールのデジタル教育を比較してみよう。まず、日本では一人一

学校での給食の現状 勉強には美味しい給食!!

日本ではほぼ当たり前の給食。しかし実はネパールではまだ始まったばかりである。国際機関やNGOの支援のもと、地元の小規模農家から栄養価の高い食材を仕入れる形が現在では広まりはじめ、「地産地消」のメニューになりつつある。しかし、十分に

いきわたっておらず、栄養面でも不十分である。今、駒ヶ根に住む私たちができることは少ないかもしれない。それでも、日々の給食のありがたさに目を向け、残さず食べたり、募金に参加したりすることはネパールの子どもたちの未来につながる小さな一歩になるかもしれない。

台端末が支給されているのに対し、ネパールは地方の公立学校を中心に不安定である。また、日本では教員によってもICT機器の活用量に差があるが、ネパールの私立学校では質の高いデジタル教育がされている。日本ネパールともにICT機器の活用技術を高める研修の機会は増えている。比較してわかることは、日本では広く安定したICT教育がなされているのに対し、ネパールでは私立と公立、中心部と地方での差が大きいということだ。